



The development and validation of the ethical sensitivity questionnaire for nursing students

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2019-11-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村松, 妙子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003659

博士（医学） 村松 妙子

論文題目

The development and validation of the ethical sensitivity questionnaire for nursing students

（看護学生のための倫理的感受性質問票の開発と妥当性の検証）

論文の内容の要旨

〔はじめに〕

医療技術の進歩、高度化、それに伴う患者ケアの複雑さにより、看護師は日常的に倫理的問題に直面している。日常的に遭遇する様々な倫理的問題に対応するために、看護師には専門職として高い倫理実践能力が求められている。倫理的問題に対処するためには、医療従事者は何が倫理的問題であるかに気づく能力である倫理的感受性を身につけ高める必要がある。看護学生においても、将来の看護専門職者として倫理問題に対処するための準備をする必要がある。倫理的感受性は、倫理的意思決定プロセスの重要な側面であるが、看護学生の倫理的感受性を測定する尺度はこれまでに報告がない。そこで、この看護学生のための倫理的感受性質問票を開発し、その信頼性と妥当性を検証した。

〔方法〕

1. 質問票項目の作成

はじめに看護実践の場における倫理的問題や倫理的葛藤の場面に関する文献を検索し質問票項目を作成した。検索時の際は臨床看護実習で学生が遭遇しうる倫理的な問題に重点を置いたため、生命倫理に関わる倫理問題については質問票項目から除外し48項目の質問票項目を作成した。

2. パイロットスタディ

48項目で構成された看護学生のための倫理的感受性質問票の内容妥当性の評価は、5名の看護倫理を専門とする大学教員と臨地実習で学生指導を行っている大学教員によって評価され承認を得た。さらに、質問票の項目について、意味内容が理解できるかを、看護大学を卒業した臨床経験のない5名の大学院生1年生にプレテストを依頼した。その結果、わかりにくいと指摘があった2項目の表現を修正し、1項目は削除し47項目となった。修正した項目については看護倫理の専門家に意味内容に変更がないことを確認した。

3. 対象およびデータ収集方法

日本看護系大学協議会に所属する中部地区の4年制看護大学のうち、研究協力が得られた10の大学へ合計2480部の質問紙を配布した。9の大学については郵送法で実施し、1大学は留め置き法で実施した。調査の実施前に浜松医科大学医の倫理委員会の審査を受け承認を得た。研究データの収集は2015年4月~9月に行った。

4. データ分析

天井効果とフロア効果の確認およびピアソンの相関係数によって回答の偏りを確認後、探索的因子分析を行った。信頼性の検討のため、1大学の学生に対し再テスト法を実施した。また、基準関連の妥当性を検討するために単回帰分析を用いて、信頼性が確立されている既存の質問票である道徳的感受性テスト（The Japanese version of the Moral Sensitivity Test: JMST）および改訂道徳的感受性質問紙日本語版（Japanese version of the revised Moral Sensitivity Questionnaire: J-MSQ）と本質問票を比較した。

[結果]

1. 対象者の属性

計 528 部のアンケートが回収され、有効回答は 525 部であった。

2. 看護学生のための倫理的感受性質問票（The Ethical Sensitivity Questionnaire for Nursing Students: ESQ-NS）の開発

探索的因子分析を行った結果、13 項目 3 因子が特定された。第 1 因子「患者の意思尊重」は 8 項目、第 2 因子「資源の公正な分配」は 3 項目、第 3 因子「患者情報保護への配慮」は 2 項目で構成され、各因子のクロンバック α は 0.77-0.81 の範囲であり、質問票全体では 0.82 を示した。再テスト法の結果は、質問票全体では相関係数 0.42 ($p < 0.01$) であった。JMST および J-MSQ と本質問票の単回帰分析の結果、JMST の主成分 5「ケアの葛藤の判断」、J-MSQ の第 2 因子「道徳的な気づき」との関連が示された。本質問票の学年毎の得点比較では、全体スコア及び第 1 因子、第 3 因子で有意差がみられ、1 年生よりも 2 年、3 年生、4 年生の平均得点が高かった。

[考察]

因子分析における標本サイズの一般的な経験則としては、変数の数の 5~10 倍を使用するため、本研究のサンプルサイズ ($N = 525$) は因子分析に適切であると考えられる。内部一貫性信頼性を示す ESQ-NS のクロンバック α 係数は、質問票全体で 0.82 と十分な信頼性を示した。各因子のクロンバック α 係数は、第 1 因子は 0.81、第 2 因子および第 3 因子でやや低く 0.8 以下となったが、クロンバック α 係数は項目数が少なくなると小さくなる特徴があるため、第 2 因子が 3 項目、第 3 因子が 2 項目で構成されていることを考慮すると質問票として利用するには十分な内部一貫性を有したものと見える。また、再テストによる信頼性の検討においても、質問票全体では相関係数 0.42 ($p < 0.01$) と高い相関を示していることから、ESQ-NS は信頼性を確保していると判断した。看護師を対象に開発された既存の質問票では、学年による倫理的感受性の変化をとらえることが難しかったが、学生向けに開発した ESQ-NS を用いた本研究では、学年が上がると質問票の得点が高値を示しており、学年による倫理感受性の変化を観察することが出来た。

[結論]

ESQ-NSは、看護学生の倫理的感受性を評価するために開発された最初の測定ツールであり、十分な基準関連妥当性と内部一貫性信頼性を示した。この質問票は、自己評価による看護学生の倫理教育の評価に有用である。